



人間関係の重要性が語られるとき、「メダカの学校」の勝俣校長先生のお話が頭に浮かぶ。

三十年前、ふと気がつく蓮池にメダカがいなくなっていた。メダカどころか、鮎、ハヤ、カジカもいなくなり、セリの群生までもがすつかりなくなっていた。これではいけないと始めたのが、きれいな蓮池を取り戻す運動である。ただ、先の見えない地味な活動であるためか、かなり注目されたが、やがて地域住民からも忘れられていく。

ある日、感動的な変化が産声を上げ始める。メダカも小鮎も蘇り、気が付けば野鳥までもが飛来するようになっていた。興味深いのは、メダカがすむ明見湖を取り戻す活動が、実は、地域住民の人間関係を取り戻す活動でもあったという点である。

失った自然を取り戻すことは大変なことである。地域全体の理解と協力を得るため、休日の度にボランティアを募る。不満は多かったが、回数を重ねていく内に仲間が増え、あ

る峠を越えた時期から、変化を肌で感じた人々の声が広がる。家族の参加により子どもたちが集まる場所が生まれ、大人達の会話の場が増えていく。近所の家を訪れ合うネットワークも広がり、誰もが、なくなりつつあったのは自然だけではなく、地域住民が心で支え合う人間関係そのものだったと気づかされていく。

私的な話で恐縮だが、筆者が住む鹿留宮下地区でも、この人間関係のネットワークを取り戻す取り組みの一つとして毎年軽スポーツ大会を開いている。今年で十四回目を迎える。

子どもの頃、収穫を終えた田圃で草野球を楽しんだメンバーがたまたま自治会体育部に名前を連ねた。あの頃のように群れて遊ぶ人間関係を取り戻したいと声が出る。「順番を守る大切さは、メンコやベーゴマで教わった気がする。」「本気で叱ってくれる人が近所にいたなあ。」「いたいた、あのばあさん、もう亡くなったかな。」「おいおい、まだ元気だよ。」「あの頃は雷親父とか、くそばあなんて恨んだけど、この歳になると、ありがたいことだったと思うなあ。」「我が子を持つ一人の親としてこういう人間関係の場を取り戻したいし、そんな関係を地域に作り出せる親でありたいよねと、口々に確認し合った。その頃、妻のお腹には長男が宿っていたこともあり、気持ちは同じだった。話は弾み、いよいよ開催へと動き始める。

その年の十一月下旬に第一回目の大会を開いて以来、わが家の子どもたちは、毎年この大会を楽しみにしている。その後生まれた二人の女の子も含め、毎年家族ぐるみで参加している。当時小学生だった近所のかわいいお嬢さんは、二十歳を過ぎた今でも楽しそうに参加してくれる。この間に、息子を本気で叱ってくれるおじさんおばさんにも出会えた。道を通る度にあめ玉をくださる老夫婦もいらつしやる。川に落ちたとき助けてくれたのも、地域の人だった。

晩秋の半日、豚汁や甘酒を飲みながら、上は九十、下は乳幼児までの老若男女約八十人が、ペタンクや輪投げに一喜一憂し賞品の争奪を楽しむ。会場は、図らずもかつて草野球を楽しんだあの田圃である。地主さんのご配慮で地域住民が自由に使える広場として整備され、「宮下グラウンド」と命名された。

ペタンクに興じ、癒しのひとときを味わっていた昨年、一年生になる末娘が試合中にこんな言葉を口にした。「お父さん、今年もみんな一緒だね。磯村のおっちゃんもいるよ。」「そうだね。みんな一緒っていいね。」「家族だけではなく、近所の人たちも含めて「みんな」と表現している我が子の嬉々とした笑顔を見ると、決して自分たちだけで生きているのではない、生かしていただいているんだと、感謝の気持ちで一杯になった。

暮らしに役立つ情報

比較的安価な金属製アクセサリ類などの取扱いに注意

金属製アクセサリ類などを、乳幼児がなめる、口に入れる、飲み込むなどしないように大人が取扱いに注意しましょう。

比較的安価な金属製アクセサリ類などは、外見からは、鉛が含まれているか否か判断できません。もし、鉛を含んでいる製品を乳幼児がなめる、口にのける、飲み込むなどした場合、鉛を摂取する危険性があります。

乳幼児がいるご家庭では、これらの金属製アクセサリ類などに乳幼児が接触しないよう大人が取扱いに注意しましょう。

問合先 山梨県企画部県民室 県民生活課消費生活担当